

# 地域産学官共同研究拠点の整備

平成21年度補正予算案:695億円(JST施設整備費補助金)

各都道府県に地域産学官共同研究拠点を整備し、産学官連携の総合的な取組を加速することにより、地域の特色を生かした産学官共同研究を推進するとともに、研究成果の地域企業への展開を図る。これにより、科学技術駆動型の地域経済活性化を実現。

## <事業概要>

⇒自治体・大学・産業界からの提案を踏まえ、次のような取組を推進するための拠点施設を科学技術振興機構(JST)が自治体と共に47都道府県に整備。事業実施に当たり、文部科学省、経済産業省等と連携。

- 地域の強みを生かした産学官共同研究の実施
- 産学官共同研究により開発された装置の設置・共用により、地域企業への成果の普及
- 共同利用装置設置による中堅・中小企業の技術高度化を支援
- 装置等の利用を通じた高度技術者の養成
- 地域の産学連携推進部門・知財部門、各種コーディネータ等の集積の高度化
- ベンチャーの活動を支援するインキュベーション機能の充実

## <内訳>

新築 25億円 × 23拠点  
増築 5億円 × 24拠点

※実際は地域の提案によって異なる

## 【具体的な仕組み】 ※詳細は検討中

- 地域(自治体・大学・産業界)が主体となり、当該地域の特性を生かした産学官連携を推進
- 共同事業として、地域が用意した土地にJSTが拠点施設(装置等を含む)を整備
- 新築のほか増築も可。地域の状況に応じて数億～最大30億円とし、事業費全体の695億円の中で配分額を調整
- 運用経費については、地域が負担

産学官連携により地域の産業構造を改革させ、地域経済を活性化

# ナノテク・バイオ領域融合による新産業創出拠点(イメージ)

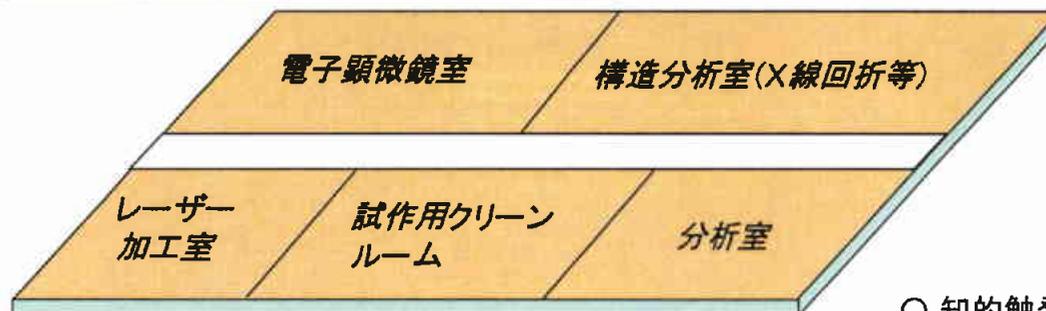
機能: 産学共同研究機能、企業技術高度化、高度技術者養成

概要: ナノテクノロジー分野とバイオテクノロジー分野の融合による先端研究の推進

## 2F ナノテクノロジー研究フロア



レーザー加工装置



X線構造解析装置

## 1F 交流フロア



- 知的触発を促すナノテク研究者とバイオ研究者の異分野交流
- 公設試の分室設置による利用者支援と技術相談
- 中小企業からの技術相談を大学研究者へ橋渡し
- 産学官共同研究により開発された装置の設置・共用により、地域企業への成果の普及を図る

## B1F バイオテクノロジー研究フロア



動物試験等による有効性&安全性試験



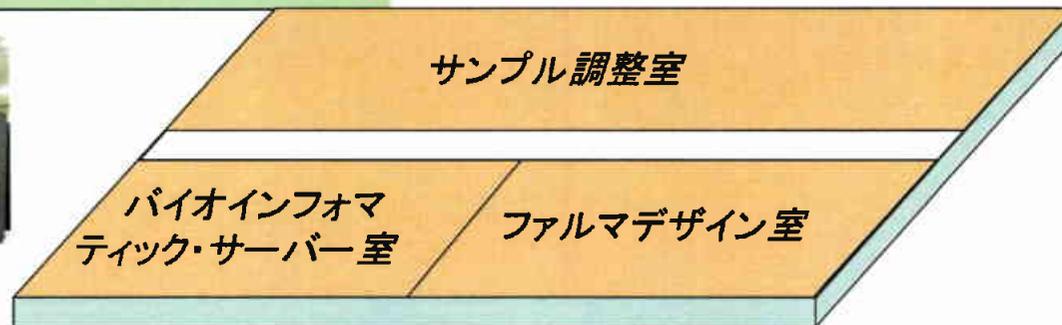
TOF-MASS: 微量タンパク質分析装置

# 大型共同利用施設の設置による産学官共同研究の推進(イメージ)

機能: 地域の強みを活かした産学官共同研究の実施、共同利用機器設置による新規事業の創出

概要: タンパク質解析(構造と機能)に必要な分析装置を集中的に配備し、研究開発を推進

## 3F バイオインフォマテック研究フロア



(3F)

- 分析したいタンパク質の調整
- バイオインフォマテックスを用いて、分析結果より構造解析
- 構造解析したタンパク質に対する化合物をバイオインフォマテックスを用いて設計

## 2F 産学官連携拠点&大型設備設置フロア



(2F)

- 核磁気共鳴(NMR)装置を用いた地域産学官共同研究の実施
- 技術相談、事業化研究に関する相談、地域大学の研究者への橋渡し

## 1F 大型設備設置フロア



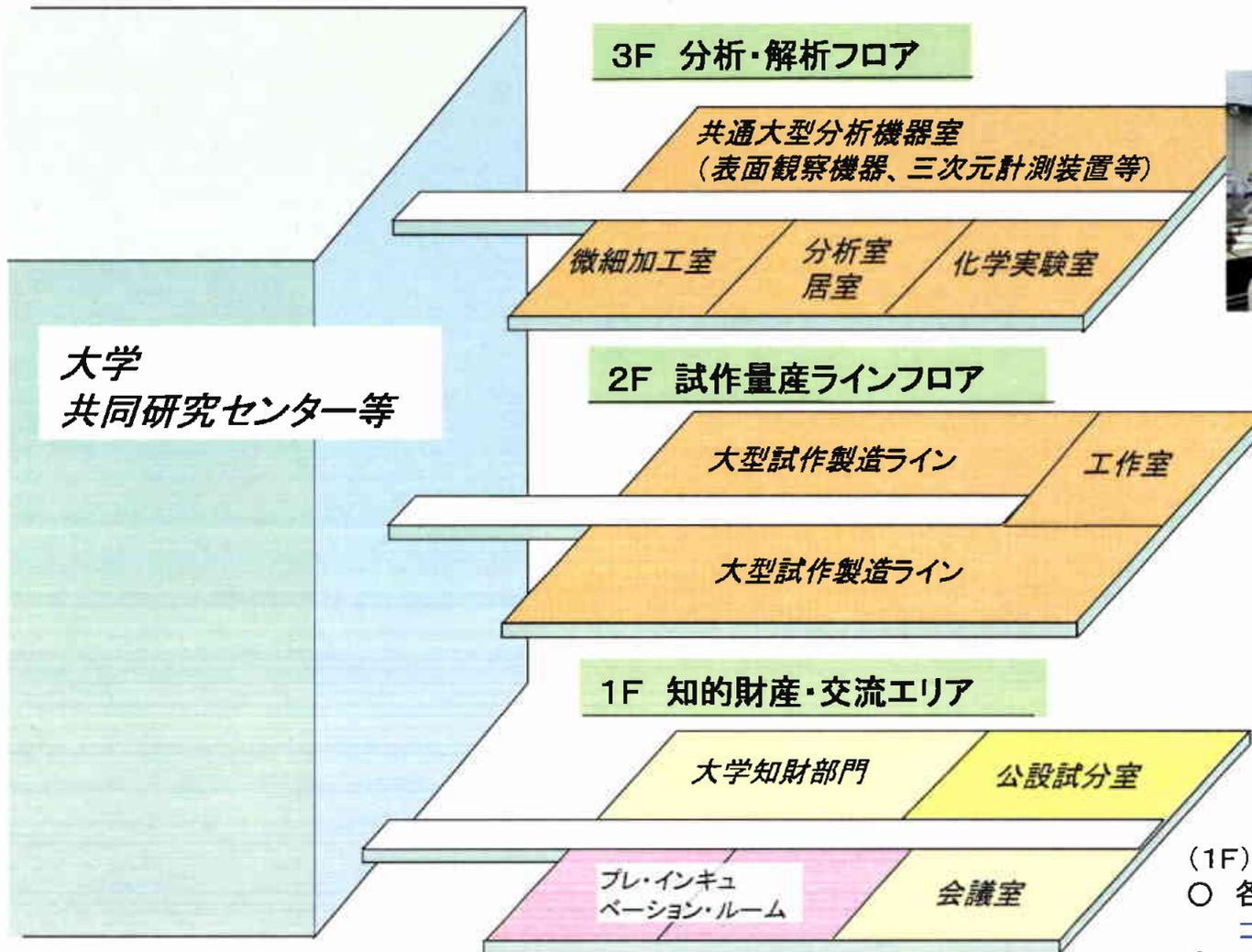
(1F)

- NMR装置を用いた地域産学官共同研究の実施
- セミナー室にてバイオインフォマテックに関する研修会を開催

# 大学の研究センターに試作・量産ラインを付加した 事業化推進(死の谷克服)と技術者養成(イメージ)

機能: 産学共同研究機能、企業技術高度化、高度技術者養成

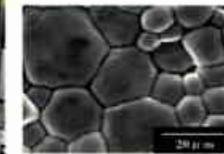
概要: 既設の大学共同研究センターに事業化の橋渡しとなる拠点を増設



(3F)

- 試作物の分析。量産化技術への反映
- 共通機器等を企業技術者等に開放。

SEM等の表面観察により  
仕上がりを確認



(2F)

- 半導体の製造ライン等、大規模な試作装置を設置し、研究成果に合わせて改良、事業化を検討・橋渡し
- 製造ライン実機を用いて、製造の全行程を体験し、俯瞰型技術者を養成。



←製造ラインの設置



技術相談→

(1F)

- 各種コーディネータ関連機関が入居、情報共有とコーディネート活動の効率化
- 公設試の分室を設置し、テクニカルサポートスタッフによる利用支援 & 技術相談